

楊枝秀基（ようじ・ひでき）

入団から引退後まで～アスリートのトータルライフを取材、サポート
プロ野球セカンドキャリアナビゲーター



株式会社Office42

651-0086
神戸市中央区磯上通4-14-13
宮スカイビル7F

公式HP
<https://hp.office42inc.com>

東スポコラムニスト楊枝プロ

グ<https://office42inc.com>

所属：和47支部

東京運動記者クラブ会員

元デイリースポーツ虎番記者

1973年8月6日、大阪生まれ、神戸育ち。兵庫県立星陵高～関西学院大を経て98年、虎党のバブルとされる**デイリースポーツ**に入社。巨人、ヤクルト、西武、近鉄、阪神、オリックスの球団担当番記者を歴任。学生時代の渡米経験を生かし、日米野球やWBCなど国際大会の取材経験も多数。**09年、WBCでは取材班キャップ**として原ジャパンの連覇を現地からリポートした。

06年～09年はサンテレビ「熱血!!タイガース党」にデイリースポーツ虎番記者として出演するなど、テレビ、ラジオなどメディア出演多数。マスコミ、スポーツ業界就職希望者セミナーでは、取材手法や、「相手に確実に伝えるための文章術」などの講師も務める。

東スポコラムニスト・Barのマスターへ

13年に独立、フリーランスに。東京スポーツで不定期連載コラム「ワッショイ!!スポーツ見聞録」をスタート。14年にはフォレスト出版から「阪神タイガースのすべらない話」をリリース。

14年、「Sports Bar & Dining 42」を神戸・三宮で開業。19年に大阪移転のため閉店するも、コロナ禍で計画を白紙に。2021年、**YouTube「楊枝秀基のYO!!-チャンネル」、オンラインスポーツバー「Baseball Bar 42」**をそれぞれ開設。今後はプロ野球ファンによるコミュニティで作るオンラインサロン「**SALON42**」などを開設予定。

そうでない方々にも

Office42が貢献できること

プロ野球好きには

・あなた自身を、あなたのサービスを、あなたの商品をメディアで紹介することに興味はないですか？テレビでお店を紹介してもらいたい、ネット記事に自社サービスを掲載してほしい、自分がテレビに出て会社を紹介したいe.t.c。これなら野球に興味があっても「ん？そんなことできるの？」って思ってもらえたか？

・一口にプロ野球記者といってもイメージが湧きませんよね？普段接する機会もないでしょう。一体、何が出来ると思われるかもしれません。多岐にわたるマスコミ業界の仕事の中のごく一部、プロ野球の取材、ライティングの専門家であるというのが事実です。

・そもそもマスコミの本業とは何か？テレビもラジオも新聞もネットメディアも実は自社媒体を持つPR会社です。

・マスコミ業界在籍20年超の現役スポーツライターはPRのプロでもあります。僕にできないことはたくさんあります。でも、ご安心を。クリエイターや営業、企画それぞれ専門のプロたちが我々チームの一員です。

・野球好きの方には現場から仕入れたリアルな情報を楽しんでもらうことからスタート。オンライン、リアルでホンモノのアスリートとの取材エピソードなどをご提供いたします。

・無料のYouTubeライブ「新聞には書けない話」や、オンラインスポーツバー（参加費など下部参照）にご参加いただけると、ここだけの業界裏話をご堪能いただけます。

・プロ野球選手やOB、解説者を講演会やトークショーに出演依頼したい。ゴルフコンペに参加してほしい。野球教室に呼びたい。企業の草野球でプロと対戦してみたいなどなど。ご依頼いただければ可能な限り実現できるよう交渉させていただきます。しかも、事務所やアスリートと直接のコネクションがあるため、一般的な代理店に依頼するよりもコストを抑えることができます。

・アスリート、マネジメント事務所、球団関係者、マネジャー、テレビ局、新聞社、雑誌社、ネット媒体など担当者と直接、連絡が取れるため、依頼がダイレクトに伝わります。

リアル店舗のありし日に

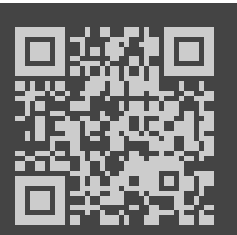
スポーツバーでアスリートと夢を語り合った日々は一生の宝物です。現在、店舗がないのは残念ですが、今は世界のどこにいても皆さんとお話できます。アスリートと共存しながら社会に役立つ方法、オンラインバーで相談に乗ってください。ご予約は>>>

Baseball Bar 42



取材記者歴20年超楊枝秀基のBar42

日曜、月曜19時～
20時ZOOM開催！
3000円ご予約は↓



目指すところ

プロ野球選手のセカンドキャリア問題を解決

引退後に不安などないスーパースターも存在します。ただ、多くのアスリートたちは何らかの不安を持ったままユニホームを脱いでいきます。彼らのために何かしたい。そんな大上段からモノを言うつもりはありません。長年、取材で培った人脈やスキルを動員し、知恵を絞ることで元アスリートと共に社会に還元できることはないか。競技の裾野を広げのちの世代に繋ぐことはできないか。ネクストステージでも必要とされる舞台づくりにご協力ください。